

浅野誠

庭畑 2017年

私のブログ「沖縄南城・人生創造・浅野誠」の掲載記事を何年か経ってから、編集してHPに掲載している。そのなかで最も多いのが、「庭畑」シリーズで、毎年1～2冊になっている。今回も、2017年記事を編集した。一年一冊に絞るために、何枚かの写真を割愛したが。

収録したなかでは、「私の庭畑づくり」(27回掲載、2018年まで継続)、「私とハーブ」(9回掲載、2016年からの継続)が、多くを占める。

庭畑「づくり」から庭畑「維持管理」へと移ってきたころの記事だ。振り返ると、改めて季節を感じるとともに、年による季節の違いに気づくことが多い。開花が一月ぐらいズレたり、果実の収穫量の変化などがある。

それにしても、私の日々の生活に不可欠のものだ。

2021年4月 発刊

目次

(月日はブログ記事公開日 月日順に配列)

- 2017年12月22日 着生ラン 私の庭畑づくり27
- 2017年12月12日 ペンタス クロッサンドラ トウワタ キクなど 私の庭畑づくり26
- 2017年12月02日 メイフラワー クフェア アジサイ ハンギングヘリクニア 私の庭畑づくり25
- 2017年12月01日 鶏頭が玄関に門柱をつくる ニンニクカズラ開花 サガリバナ開花 熟すのを待つ果物
- 2017年11月22日 ハイビスカス サルスベリ ランタナ タイワンレンギョウ キバナタイワンレンギョウ 私の庭畑づくり24
- 2017年11月12日 クルチ(クロキ、リュウキュウコクタン) ナンテン マッコウ(ハリツルマサキ) 私の庭畑づくり23
- 2017年11月01日 サガリバナ(サワフジ) ティートリー ガジマル 私の庭畑づくり22
- 2017年10月23日 サボテン セイロンベンケイ 月下美人 ユーフォルビア・クリスタータ・ラクテア 私の庭畑づくり21
- 2017年10月14日 バナナ パパイア ドラゴンフルーツ 果樹5 私の庭畑づくり20
- 2017年10月13日 クワンソーの花 蝶豆 剪定 バナナ移植 このごろの畑庭作業
- 2017年10月04日 ジャボチカバ シーカーサー キンカン レモン 果樹4 私の庭畑づくり19
- 2017年09月30日 栽培→収穫→皮むき→焙煎→ドリップ→100%我が家産のコーヒーを味わう
- 2017年09月24日 マンゴー ライチ インドナツメ 果樹3 私の庭畑づくり18
- 2017年09月23日 鶏頭(けいとう)の門柱ができる ラクティアの挿し木(マハラジャ)
- 2017年09月14日 パッションフルーツ ビワ バンシルー カニステル 果樹2 私の庭畑づくり17
- 2017年09月03日 コーヒー アセローラ ビタンガ ホワイトサボテ 果樹1 私の庭畑づくり16
- 2017年08月22日 チョウマメ サクララン ジャスミン・マツリカ オオイタビ 私の庭畑づくり15
- 2017年08月21日 毒をもつミフクラギ(オキナワキョウチクトウ ミーフックワー)
- 2017年08月11日 シッサス ニンニクカズラ スイカズラ(ハニーサックル) テイカズラ 私の庭畑づくり14
- 2017年07月31日 ブーゲンビリア オオバナアリアケカズラ(アラマンダ) 私の庭畑づくり13
- 2017年07月21日 ホウライカガミ モンテスラ オウゴンカズラ(ポトス) 私の庭畑づくり12
- 2017年07月17日 サガリバナ満開続く
- 2017年07月12日 知らぬ間にたくさん育てていたつる植物 ハツユキカズラ 私の庭畑づくり11
- 2017年07月02日 トックリヤシモドキ マニラヤシ アレカヤシ 私の庭畑づくり10
- 2017年07月01日 パッションフルーツ豊作 ぎぼうし ディフェンバキア こうもり いそひよどりの巣
- 2017年06月22日 自然に沿ったデザイン 私の庭畑づくり9
- 2017年06月13日 苗種 私の庭畑づくり8
- 2017年06月12日 大量のライチが鳥に食べられる
- 2017年06月10日 ドラゴンフルーツ開花 オオイタビに絞め殺されそうなチシャノキ このごろの庭畑
- 2017年06月03日 通路づくり 私の庭畑づくり7
- 2017年05月22日 有機無農薬 木片チップの投入 私の庭畑づくり6

- 2017年05月16日 野菜・ハーブの移り替わりのころ
- 2017年05月12日 堆肥づくり 私の庭畑づくり5
- 2017年05月09日 ティートリー満開 バナナ収穫 ピタンガ収穫
- 2017年05月02日 開花し始め ダイギンリュウ クミスクチン クフェア ガクアジサイ ハンギングヘリクニア
- 2017年05月01日 不耕起 私の庭畑づくり4
- 2017年04月29日 テイカズラ タイワンレンギョウ ユリ ティートリー ドラセナ・レフクサ「ソング・オブ・インディア」 コーヒー
- 2017年04月24日 開花 アマリリス オクラレルカ パッションフルーツ
- 2017年04月22日 我が庭畑の開花予想 ラン
- 2017年04月21日 庭畑づくりの準備 私の庭畑づくり3
- 2017年04月18日 カクチョウラン 我が庭畑の開花情報
- 2017年04月11日 愛知県赤池での庭 玉城の庭畑づくり前の状態 私の庭畑づくり2
- 2017年04月06日 ドクダミ 連載のふりかえり 『連載 私とハーブ』33最終回
- 2017年03月31日 現在の玉城以前の話 南風原新川 西原小波津団地 私流庭畑づくり1
- 2017年03月27日 長命草 ハママーチ ヨモギ(フーチバー) カワラヨモギ 『連載 私とハーブ』32
- 2017年03月21日 オープンガーデン(嶺井時光さん、大城盛安さん、新垣嗣亀さん、安和朝忠さん)とさちばるぬなーあしび
- 2017年03月18日 メイフラワー コーヒーの花 ライチの花 アサギマダラ 春めく庭畑
- 2017年03月16日 ビワ バンシルー(グアバ) 月桃(サンニン) 桑 『連載 私とハーブ』31
- 2017年03月06日 ウコン(ウッチン) クワンソー クミスクチン(猫のひげ) 『連載 私とハーブ』30
- 2017年03月02日 「お茶会」(オープンガーデンができるような畑庭の知恵をいただくことを兼ねて)の案内
- 2017年02月23日 ハンダマのゆで汁で炊いたご飯 ピンク(紫)が美しい
- 2017年02月22日 アロエ 『連載 私とハーブ』29
- 2017年02月12日 アスパラガス 三つ葉 ナスタチウム(キンレンカ) 『連載 私とハーブ』28
- 2017年02月10日 洋ラン博覧会
- 2017年02月01日 チャービル イタリアンパセリ パセリ チャイブ 『連載 私とハーブ』27
- 2017年01月24日 カニステル収穫
- 2017年01月21日 ルッコラ コリアンダー バジル 『連載 私とハーブ』26
- 2017年01月11日 「観葉植物園」?づくり
- 2017年01月10日 フェネル フロレンスフェネル デイル 『連載 私とハーブ』25

2017年12月22日

着生ラン 私の庭畑づくり27

ここに住み始めたころ、訪問者からいただいて、その後どうしようか困っていたのがランだ。恵美子は、海岸で拾った大き目の珊瑚の石で育てている。何年もたって、結構広がり開花するようになっている。開花すると、室内で鑑賞することも多い。

ランを丁寧に面倒を見ることはできないと思っていたころ、着生ランという方法があることに気付いた。あちこちのガーデンでそんなのを見たとし、海洋博記念公園の洋蘭博覧会でも、たくさん見た。

ということで、7、8年前から始めたが、ここ3年ほど熱心になった。といっても、簡単な手入れしかしていない。木の枝が二股になったところに、水苔でつつんだ苗を置いて縛っておく。洋蘭博覧会の相談コーナーで教えてもらった

ことだが、茶袋に入れた固形油粕も載せておく。水やりは、夏の暑い日の夕方に、他の植物と同時にするぐらいだ。

そんなやり方で、20本近くやっているが、数本がすでに開花している。とくにカトレヤが毎年咲くようになった。今年も、開花時期が近づいて、花芽が出てきている。



2017年12月12日

ペンタス クロッサンドラ トウワタ キクなど 私の庭畑づくり26

我が庭畑は花中心でないので、御花畑のようなものはない。だから、地味な感じがするかもしれない。でも、あちこちに草花があり、いつも何か咲いている。

手入れが少なくすむものばかりだ。自然状態に任せておいても、生育し開花する類だ。だから、多年草や種こぼれから広がるものが多い。なかには、この土地に昔から住んでいるものもある。

ペンタス (中左写真) 10年ぐらい前に買ってきた苗を殖やしている。挿し木で簡単に殖える。赤とピンクの花で、白は育てていない。ベランダの千年木の鉢にも植えて、彩を加えている。

クロッサンドラ (中右写真) 今回紹介するなかでは一番新しく、数年前に購入した苗3~4本だ。よく開花する。しかも年がら年中だ。



上の二つの手入れという、花がら積みだ。せつせとやれば、その分だけ開花する。



トウワタ 近隣のあちこちに自生している。繁殖力旺盛なので、除去してしまう人も多い。我が家の門柱をつくっている鶏頭と似て、すごく元気だ。種こぼれで、あちこちから出てくる。花がお落ちた後の綿毛が飛んで種をまき散らしてどんどん殖える。カバマダラの食草で、春~夏にかけて、カバマダラが集まる。幼虫が食べ尽くしてしまうこともある。冬の今でも咲いている。

キク いただいたものや買ってきた鉢での開花が終わると、地植えにしている。畑庭のあちこちで、11～12月になると開花する。



日日草 (中左写真) これも強い。10年以上前に買ってきた苗が、あちこちに広がっている。雑草のように広がるが、結構美しい。完全に多年草化しているが、種こぼれでも広がっている。



リュウキュウコスミレ (中右写真) この地に何百年と生き続けてきたものだろう。岩の上でも育つ。最初のころは邪見にして、取ったりしていたが、パンジーを買ってきて植えるより、これの方がいいと思って、広がるようにし始めた。

ツルボ 岩の上で育っている。これまたずっと前から自生しているようだ。地味だが結構きれいな花をつけるし、細長い葉もいい。



2017年12月02日

メイフラワー クフェア アジサイ ハ ンギングヘリクニア 私の庭畑つくりの 特徴25

メイフラワー

10年以上前にいただいたものを地植えにした。3～4月の開花後、強剪定するが、今では高さ2メートルほどになり、毎年3月ごろ、花いっぱいになる。

クフェア (右上写真)

とても小さくて地味な花をいっぱい付ける。グランドカバーのように広がり、種こぼれから新しいものも加わる。愛知の時も育てていて、冬越しに苦労したが、ここではそんな心配はない。

アジサイ

何本も植えたが、この土地が合わないのか、伊豆味のアジサイ園で購入した苗だけが生き残っている。毎年、いくつか開花するが、育て方が難しいと思う。



ハンギングヘリクニア (左写真)

これも10年ほど前にいただいたものを地植えにした。今では大繁殖し、隣のハイビスカスを囲い込んでしまい、さらに隣のガジマルに対抗するほどに大きく育っている。毎年30～40本の新しいものが出てきている。それが3メートルほどの高さに至り、花房を出し、垂れ下げる。春ごろから赤みがかったなかに、花をやや黄色い花を出してくる。すごい、といった感じだ。驚く来客も多い。

2017年12月01日

鶏頭が玄関に門柱をつくる ニンニクカズラ開花 サガリバナ開花 熟すのを待つ果物

鶏頭が玄関に門柱をつくる

以前の記事に紹介したが、立派な門柱になっている。アスファルトの隙間にこぼれた種から出てきたもので、まさに「自然の妙」だ。玄関入口にちょうど頃合いの幅で現在高さ1メートル余り。右の「門柱」の隣には、私が制作した「表札」とシーサー。



ニンニクカズラが満開（中左写真） 以前は、サガリバナやライチなどの枝に沿って伸びており、それらの樹木が息苦しくなってきたので、建物方向に誘導した。

サガリバナ（右下写真）が、また開花。我が家のサガリバナは、季節感が弱いのか、毎年、この時期にも咲く。そして、正月に咲いた時もあった。写真は、気づかずに落ちた花を朝写す。





熟すのを待つ果物 上左 カニステル、 上右 インドナツメ



パッションフルーツ

ビワの開花が近づいている



2017年11月22日

ハイビスカス サルスベリ ランタナ タイワンレンギョウ キバナタイワンレンギョウ

ヨウ 私の庭畑づくり24

ハイビスカス (アカバナ)

中心は、フウリンブツソウゲと二段花のアカバナだ。双方とも、強い。玄関脇のおのおの一本は、玄関通路をはさむようにして、来客を楽しませてくれている。庭の東側にも、各々一本ずつ大きなものがある。これら4本は、いずれも高さ3~5メートルだ。いずれも、挿し木で殖えるので、他の場所にもいくつかある。

この他に、ハワイなど海外から来て、品種改良で美しい大輪の花を咲かせるものを、庭畑に数本育てている。

我が家の花木の中心的位置を占めている。

サルスベリ

三本、育てている。周りの草木に負けそうだが、なんとか育っており、赤やピンクの花を楽しませてくれる。

ランタナ (七変化)

美しい花と心地よい匂いで、楽しませてくれる。今は2本を庭に育てている。一本は、隣のマンゴーと競い合って伸びている。



タイワンレンギョウ キバナタイワンレンギョウ

この二つは、似ているが、キバナの方が、花の色がやや薄い。タイワンレンギョウの花は、鮮やかな紫だ。玄関脇に各々一本が大きく育っている。キバナの方は、一度台風で根元から折れたが、復活して高さ3メートルを超すほどに至っている。双方とも、他の場所にも何本か育てている。

これらの花は、このブログにしばしば紹介している。今回は、隣の森との境界に沿わせて、大きく伸ばしているハイビスカスの2本の木の写真を紹介する。手前が二段花のアカバナ。向こう側がフウリンブツソウゲ。その奥にはガジマルの端っこが写っている。いずれも高さ3~4メートル。もっと高く伸びるが、その高さで剪定している。

2017年11月12日

クルチ (クロキ、リュウキュウコクタン) ナンテン マッコウ (ハリツルマサキ) 私の庭畑づくり23

クルチ (クロキ、リュウキュウコクタン)

我が家の敷地の前所有者が植えたもので、我が家着工当時は、高さ1~3メートルだった。建物敷地になるため除去が必要なものは、施行業者に移植してもらったのだ。

その後、植木が立て込んできたので、いくつか間伐した。現在、高さ4~6メートルのものが9本、根元で切って、小さく育てようとしているもの2本。

クロキは成長が遅いと言われるが、年20センチ余りは伸びる。たくさんの実を落とし、いくつも新芽を出す、処分するしかない。私は、脇枝を取るなど、単純な剪定しかしていないが、好きな人は、「玉チラシ」など、多様な加工をしたり、盆栽などにして楽しんだりしておられる。



姿が美しいので、いくつもの市町村が、市木などに指定している。巨木になると、幹の芯が三線の棹に使われる。我が家のものも、いずれ10メートルを超すようになると、立派なものになるだろう。だがそれは私の次の世代の話だろう。

ナンテン

住み始めて間もないころに、苗を購入して植えたものが2本。それらの脇芽が2~3本育っている。今高さ50~60センチ。愛知に住んでいたころに育てていたものと比べると貧弱だが、それでもなんとか「品」を見せ始めている。沖縄よりも本州の方が適性があるのだろう。

白い花が、いずれ赤い実になり、正月に飾るものになる。育ちが良くないので、赤い身はまだわずかだ。





マッコウ (ハリツルマサキ)

このあたりでは、あちこちに自生している。我が家でも、無数とっていいほど出てくる。そのうち数本を移植したが、いい場所から出てきたものを伸ばしているのが、現実だ。実際に管理して育てているものは約20本だ。成長が早いので、しょっちゅう剪定をしている。

剪定に強いだけでなく、水分があるところないところいずれでも育つ。岩の上でも、わずかな土がたまっていれば伸びてくる。だから、盆栽を楽しむ人が多い。私も、沖縄生活45年

にわたって、愛し続けたものだが、自然に任せて、不揃いを剪定するぐらいの手入れで済ませてきた。

2017年11月01日

サガリバナ (サワフジ) ティートリー ガジマル 私の庭畑づくり22

サガリバナ (サワフジ) (中写真2枚)

8年ぐらい前に高さ30センチぐらいの苗2本買って植えたのが、もう4～6メートルの高さになっている。生育力がすごいので、どんどん剪定している。そうしないと、周りの植物を圧倒してしまう。とにかく花が魅力的。一房に、50個ぐらい花芽をつけ、毎日10個ぐらい咲かせる。その数十の房が一齐に開花するので、驚くほどの感じになる。それで、よく新聞に掲載される。我が家のものも、新聞社に連絡すれば、取材に来そうな感じだ。

我が家のものは、5月から咲き始め、12月まで(年を越すこともあるが)咲き続ける。今夏の水不足のためか、今年の開花は少ない。

朝になると落ちるが、落ちた花も美しい。



ティートリー

植えてもう10年を超す。高さ6メートルくらい。一度、台風で根元から倒れたが、再生した。香りがいい。アロマ・エッセンスで評判が高い。春の真っ白の花は、桜を圧倒するほどだ。



ガジマル

沖縄定番。この住宅の起工式の頃に、敷地東南隅の岩上に新芽を発見。そのまま伸ばしたら、巨大になってきたので、せっせと剪定をして、5メートル以内に抑えている。

他に、鉢植えが2本。一本は3階玄関脇（下右写真）にあるが、気根が伸びて3メートル下の地面に到着し、そこから水分栄養分を補っている。

もう一本はベランダで育てている。（下左写真）





2017年10月23日

サボテン セイロンベンケイ 月下美人 ユーフォルビア・クリスタータ・ラクテア 私の庭畑つくり21

サボテン

巨大なサボテン。高さ3メートル近くなると、台風で倒れることがほとんどだ。あらためて、植えるというか挿し木すると、半年



年後には、立派に再生する。近隣のかたとの植物交換で手に入れたものだ。

※補足 サボテンの仲間ではなく、ユーフォルビアの仲間であることを、最近知った。

セイロンベンケイ (右写真)

これには、二種ある。12～2月に派手な赤い花を見せるものと、少し遅れて、2～4月に派手ではあるが、やや地味な花を咲かせるものがある。落ちた葉から発芽する強い植物だ。繁殖しすぎるの

で、しばしば整理することが必要だ。



月下美人

夜咲くので、こんな名前になったのだろう。ドラゴンフルーツの花とそっくりだ。ただし、実はない。

ユーフォルビア・クリスタータ・ラクテア

5年ほど前にいただいたもの。しっかりと根付き、ぐんぐん大きくなっている。ネットで見ると、ずいぶん高価なようだ。珍しいので、すべての来客が見たことがないという。私もそうだった。

いただいた方は、「サンゴサボテン」と呼んでおられた。なるほど、そんな感じだ。ネット上で見つけた名前は、マハラジャ（ユウヤケサンゴ）





2017年10月14日

バナナ パパイア ドラゴンフルーツ 果樹5 私の庭畑づくり20

今回のものは、果樹といえないかもしれないが、実を取ることを中心にした話なので、ここで紹介する。

バナナ

ここに住み始めて以来、何種かを植え続けてきた。収穫にまで至るのは、毎年一房ぐらいか。3～4房を目標にして挑戦し続けている。3～4年前に三尺バナナが、そのレベルまで達したが、わずか2年ぐらいで、うまくいかなくなった。詳しい方にみてもらった。何年かすると、根にあたる芋が浮き上がってくるとのことだし、栄養分が重要だとのこと。ということで、深い穴に大量の堆肥をいれて取り組んでいる。

今春収穫したものは、3年前の台風で、収穫直前に倒れたものを、堆肥にしようと埋め込んでいたものから出てきたものだ。驚いた。今、その子どもが大きくなってきている(写真)。来春には収穫になると期待している。



パパイア

何度も挑戦してきたが、収穫にまで至る成功率は低い。買ってきた苗は途中で駄目になるのが普通。それに反して、野菜くずで作った堆肥から出てくるのは、育ちやすい。なぜだか不思議

現在育っているのは、ブーゲンビリア鉢に出てきたもの(写真)。収穫までいっくだろうか。



ドラゴンフルーツ

隣人からもらった苗をどんどん増やして、現在屋上に大型鉢16個で育てる。堆肥分を多くしているが、あとは放置しているだけ。年に一回、不要「枝」を整理している。我が家のものは、実も赤くて美味しいものだ。

6～10月の間、総計数十個の収穫。とても美味しい。夜咲く花が美しいから、このブログで何回も紹介してきた。

2017年10月13日

クワンソーの花 蝶豆 剪定 バナナ移植 このごろの畑庭作業

朝晩は秋めいてきたので、本格的に秋の畑作業をしている。

パッションフルーツの授粉作業は、開花がひと段落したので、しばし休憩。

ウリズン豆・アセローラ・蝶豆の収穫は、毎日しないと、すぐに適期を外してしまう。

これからは、いろいろなものの収穫がつながっていきそうだ。

そんななか、クワンソーが開花した。(写真)

四月に植えた蝶豆はどんどん成長し、開花したと思ったら、すぐにさやが大きくなってきたので、収穫する。インターネットで調べると、花を飲み物にいれるなどの例はあるが、さやをどう料理するかは、でてこない。これから調べていきたい。茹でて食べてみたが、硬い。さやを食べるものではないようだ。



夏の期間に伸びすぎた樹木の剪定をしている。
マンゴー クルチ ガジマル ブッソウゲ タイ
ワンレンギョウ

いずれも、高い所は3~5メートルにもなるので、作業は慎重だ。それでも、数年続けてきたので、多少のコツはつかめてきた。

まずは、高くなり過ぎたものを切る。隣の樹木とぶつかり合っているところも切る。敷地境界を超えているところは無論切るが、境界に沿って、剪定し、境界を美しくするようにも切っている。

切った枝葉は結構な量だが、いずれも根元などに入れこんでいる。

バナナ移植。庭中央の大きなバナナが、半年もすれば実をつけそうだ。その根元から新しいのが出てきているので、その一つを、畑に移植した。以前植えていたところだが、立ち枯れしてしまった。植える場所の穴を掘ってみると、クチャ(ジャーガル)ががっちり地面を抑えているので、それを突き破る作業となる。我が家での農作業の大きな課題は、このクチャの硬い層をぶち破ることだ。

2017年10月04日

ジャボチカバ シーカーサー キンカン レモン 果樹4 私の庭畑づくり19

果樹には酸性土を好むものが多い。だから山原ではよく育つが、南部では難しいが多い。そこで、植える前に鹿沼土などを入れ、加えてピートモスを時々いれ、さらに木酢液を薄めたものを与えているなど、酸性化に苦労している。



ジャボチカバ

酸性化させるための苦労の代表的なものだ。最初は対策不足で元気がなかったが、思い切った対策をしたら、元気になり始めた。といってもまだ50センチぐらいで小さい。いつの日か、期待している。

シーカーサー

柑橘類は、3種類だが、酸性にしなければならないというほどでもなく、近隣でもシーカーサーが育っている。我が家でも、一本が実をつけるまでになった。しかし、カミキリムシにやられて枯れてしまった。近隣でも、50年前には農家が栽培していたようだが、カミキリムシにやられて、断念したようだ。

2本目の苗を、数年前に植えたが、現在1メートルを超えて、開花も始まった。来年は収穫できればな、と思う。





キンカン

10年近く前にうえたが、育ちが悪い。でも、枯れることなく少しずつ成長している。収穫の見込みは、全く立たない。

レモン

5年ぐらい前に植えたものだが、昨年ぐらいから開花を始めて、赤ちゃん実も見つけたが、収穫にまで至っていない。来年ぐらいは、と期待している。





2017年09月30日

栽培→収穫→皮むき→焙煎→ドリップ→100%我が家産のコーヒーを味わう

ついに今年のコーヒーを、二人で飲む。結構いい味だと思うのは、自分たちで作ったからか。くせがない。焙煎中、ドリップ中、我が家はコーヒーの香りで満ちる。収穫して半月もしないで飲む新鮮なものだからか、と二人で会話する。購入したものと遜色はないと自画自賛。

苗は、隣人から10年以上前にいただいたもので、アルピカ種とのこと。コーヒーの銘柄名は産地でつけるのが通常なので、これは、玉城種？ 中山種？ それとも浅野種？

例年は数杯でおしまいだ、今年は結構いけそうだ。来客にはサービスする。第一次試飲は、今週。第二次試飲は、10月中旬か。第三次があるかどうかは不明

写真は、収穫したばかりの実 → 皮をむいた生豆 → 焙煎したもの → コーヒー





2017年09月24日

マンゴー ライチ インドナツメ 果 樹3 私の庭畑づくり18

マンゴー

前の土地所有者が植えたものだから、樹齢は20年を超すだろう。金煌マンゴーと言って、滅多に見かけない種で、ビニールをかけなくてもいいというものだ。一時5メートルを超す巨木になったが、管理不

能なので、3～4メートル以下に剪定している。

8年前、大豊作で、20センチを超す実が300個もなって、驚かせた。味はとても美味しい。農家がこの種をどうして育てないのか不思議だ。隔年現象で、ほぼ隔年に実をつけるが、その年に限って台風にやられて、満足な収穫が得られない状態が続いている。

加えて3～4年前に、よく見かけるアップルマンゴー一本を植えたが、成長してきたので、来年ぐらいに実をつけることを期待している。

右写真は幹



ライチ

これまた前の土地所有者が植えた3本だ。毎年収穫できるようになった。鳥が大好きで、鳥との奪い合いだ。収穫のために、2～3メートルの高さ以内におさえるための剪定をしている。毎年、200個ほど、6月に収穫している。半分は鳥が収穫しているが。

インドナツメ

7～8年前に植えた。5メートル以上の高さまで成長するが、4月に大胆な剪定するのがコツだということで、2メートル以下まで剪定している。それでも一年たつと5メートルを超すまで伸びる。昨年一個の実をつけ、今年は駄目かと思って剪定したら、3個ほど実がついているのを発見。来年はどうだろうか。期待している。実の見かけは青りんごで、味は西洋梨といった感じだ。



2017年09月23日

鶏頭（けいとう）の門柱ができる ラクティアの挿し木（マハラジャ）

先日、苗店に行ったら、ユーフォルビア・クリスタータ・ラクティアの一部を挿し木して育てたものを、マハラジャという名前で売っていた。数千円もする高価なものだ。じゃあ、我が家のものの価格はどれだけだ。おそらく数万円になってしまう。

我が家のものは、数年前に、我が家の敷地購入の際にお世話していただいた不動産屋さんが、オープンガーデンで訪問した際に、挿し木用にプレゼントしていただいたものだ。かれは、サンゴサボテンと名付けていた。いまでは倍以上の70～80センチの大きさになっている。

苗店で売っているのは、今回初めて見た。私も、挿し木に挑戦して、庭畑の何か所に殖やそうという魂胆をもってしまった。まだ実行していない。



今回の中心ニュースは、種が飛んで芽生えてきた鶏頭が、玄関の門柱のように大きくなってきていることだ。全くの偶然だ。近隣には、あちこちに鶏頭が育っているが、今年はなぜか、本当にあちこちに芽を出している。

コンクリートやアスファルトの隙間で、水もなしに成長している。

2017年09月14日

パッションフルーツ ビワ バンシルー カニステル 果樹2 私の庭畑づくり17

パッションフルーツ

我が家の果物の主人公の一つだが、樹木ではなくツル植物の一つだ。10年以上前から育てている。苗を5年ぐらいで更新する。現在4本植えて、そのうち2本が収穫できる。実の色が紫と黄色の二種だ。花の名はクダモノトケイソウで素晴らしい姿をしている。昼頃開花し、夕方に人工授粉する。多い時は、一日で20～30個開花するが、そのうち10～40%が結実にまで至る。

1メートル80センチぐらいの高さにロープを張って棚代わりにしている。

4月開花ー6月収穫、10月開花ー12月収穫が平均の時期だ。色づいて収穫した後、一週間して、表面にできた皺

が深くなると、食べごろだ。実を半分に割って、種ごとスプーンですくって食べる。ワインや泡盛を注いで飲むことが好きな人もいる。



ビワ

これまた、我が家の果物の主力の一つ。とても美味しいので、鳥が先か私が先か、という具合だ。いろいろな鳥対策をするが、決定版を見つけていない。

植えて10年以上になる今では200個近くできるが、私が収穫できるのは、その半分にもなるだろうか。3月の食料が少ない時期、鳥にとっては絶好の食べ物だろう。せっかく摘果・袋がけなどのなどの手間をかけたものも、こんな具合だ。

落ちた実から発芽した苗の一つ植えたが、現在2メートル近くの高さになり、まもなく開花・着果になると期待している。



バンシルー 別名グアバ。

10年以上前、台湾バンシルーといって、実が大きくなる苗を買って中庭に植えたが、条件がよくないので、畑に移植した。以後、元気よく育ち、数年前から収穫できるようになった。いまでは数十個の収穫だ。

ビワ葉とグアバ葉は、薬用効果があり、活用している。



カニステル 別名エッグトリー

7, 8年前に親戚からもらった苗だが、今では立派になっている。一昨年、初結実。昨年は10個近く。今年、20~30個を期待している。

2017年09月03日

コーヒー アセローラ ピタンガ ホワイトサポテ 果樹1 私の庭畑づくり16

今回からは果樹だ。畑の半分くらいは果樹園になりつつある。その代りに野菜は少なくなった。野菜と比べると作業時間が少ないので、体力低下が目立ってきた私には好都合だ。

果物には、剪定が重要なものが多いが、その理由の一つは、手入れや収穫のために高さを抑えることもある。そこで、たいていのものは、高さを2メートル50センチぐらいまでに抑えている。



コーヒー

実物を見たことがないので「見たい」という来客が多い。近所の人から10年以上前にいただいた苗3本が育っている。最初は育て方をよくわからなかったが、山原のコーヒー園で教えてもらった。肝心なのは、酸性土壌が必要なので、ピートモスや木酢液の投入など酸性を保つ作業をせっせと繰り返している。

春に白い花を咲かせ、緑色の実になり、11月初めには赤くなる。そしたら収穫し、乾燥させて皮をむいた後、必要な時に焙煎する。味は、普通のコーヒーと変わらないが、100%自家製という気分的なもので美味しく感じる。これまでは、一年で数杯程度だったが、今年は20杯以上飲めそうだ。



アセローラ

数年以上前に3本の苗を植えた。今、2本の木が成熟し、年に何回か赤い花を咲かせ、一週間後ぐらいすると赤い実になり収穫できる。ちょっと酸っぱいが美味しい。



ピタンガ

アセローラに似ているが、甘味が強いので、私は、この方が好きだ。知らない人には、両者の区別がつけにくい。数年前に購入した一本の苗が、年数回実をつける。落ちた実から、すぐに新しい苗が出てくる。いまは、子どもを2本育てている。差し上げた苗も何本かになる。

ホワイトサポテ

珍しいので、10年近く前に買った苗を植えた。育て方をよくわからず放置状態のためか、生育がゆっくりだ。今年、初めて開花した。いつか結実してくれることを期待している。



2017年08月22日

チョウマメ サクララン ジャスミン・マ
ツリカ オオイタビ 私の庭畑づくり15

つる植物の5回目だが、未紹介のものをまとめて紹介しよう。



チョウマメ (上右写真)

今春のオープンガーデンの母ハーブで購入した苗を畑に植えた。しばらく前に新聞にも掲載され注目され始めたようだ。植えたばかりだが、もう高さ2メートル近くなり、ロープで作った棚めいたものを伝い始めた。今後どうなるか楽しみだ。



サクララン (ホヤ) (左写真)

3, 4年前に買った苗を、ライチの幹に着生ランと同じように巻き付けた。しっかり生育し開花もした。興味をもったので、最近殖やし始めた。

ジャスミン・マツリカ (ムイクワ) (下左写真)

10年近く前に玄関脇に植え付けた。順調に生育し、大きく広がり、時々、白くて香りがいい花を咲かせてくれる。時に、紫色の花もつける。今夏の暑さ・雨不足で、今は元気がない。

オオイタビ (下右写真)

自生しており、敷地のあちこちで頑張っている。屈強な感じがする。巨大化したものが、我が敷地最大の樹木チシャノキの高さ8メートルくらいまで伸びて、締め殺しをしている。



2017年08月21日

毒をもつミフクラギ (オキナワキョウチクトウ ミーフックワー)

我が家玄関通路を覆っている大木だ。10年以上前、近隣の方から譲ってもらった木だが、今や高さ5~6メートルだ。今は、リンゴのように大きな実を一杯つけている。来訪した孫たちに、まずは「食べるなよ」という。



この木は、毒を持っている。樹液がついた指を目にもっていくと、眼がふくれるということから、和名はミフクラギ。



花も結構美しい。木の上部で上に向かって咲くので、屋上から撮影。

この木の下で一杯の花をつけているオオバナアリアケカズラも毒の持ち主だ。

2017年08月11日

シッサス ニンニクカズラ スイカズラ (ハニーサックル) テイカズラ 私の庭畑

つくり14

つる植物の4回目で、建物の南側に植えて、上へ上へと伸ばしているもの。3階ベランダの手すりから1階テラスの手すりまで張ったロープをはわせている。

シッサス (中左写真)



10年以上前に、挿し木で植えたもの。最初は鉢に植えたが、大きくなってきた時、建物前の地上に植え替えた。順調すぎる生育で、1～2年すると、3階まで達した。花は白くて地味だが、茎から垂れ下がる赤い気根が強烈だ。5メートルぐらいまで垂れ下がる。

繁盛しすぎなので、思い切って8割ぐらいカットしたが、今でもぐんぐん伸びている。

ニンニクカズラ

10年近く前に庭の石垣近くに植えたが、生育しすぎて、ライチとサガリバナを全面的に覆ってしまった。やむを得ず、思い切った剪定をして、伸ばす方向を建物側に切り替えた。

ピンクの花が鮮やかで美しい。

スイカズラ (ハニーサックル) (右写真)

3年前に、シッサスをカットした時に、代わりに植えた。今、高さ3メートルほど。この先多分、3階ベランダまで達するだろう。ハーブの仲間でもあり、ハーブティーにも使えるというのだが、それほど美味しいとは感じていない。





テイカカズラ

2年前に植える。リュウキュウテイカカズラかどうかは不明。白い花が美しい。現在高さ2メートルほど。

黄金錦（テイカカズラの仲間）（左写真）

一年前、スイカズラの横に植えた。現在30センチほど。

アサヒカズラ（ニトベカズラ）（右写真）

数年前植えて、2メートルぐらい近く伸びて、時々きれいな花を咲かせたが、最近、しおれて駄目になりそうな気配だ。



左写真

現在、シッサス、テイカカズラ、スイカズラ、黄金錦と並んで育っている。庭の方向からニンニクカズラが伸びてくる、という配置だ。

2017年07月31日

ブーゲンビリア オオバナアリアケカズラ (アラマンダ) 私の庭畑づくり13

つる植物の2回目だ。

ブーゲンビリア

2004年秋に花野果村で購入したものを地植えしたものは、
どんどん伸びて、地上8~10メートルの3階ベランダまで伸び
ている。赤
い花が印象
的だ。

無論、ロープなどで

誘引した。それでも足らず、業者に鉄線を張ってもらった。結局地上高10メートルで止まった。

鉄線はところどころで切れたりして、ビニールロープの方が強力だった。

こんなに高いのは珍しく、100メートル離れた海岸からもよく見えて、我が家の目印になっている。

それにしても、剪定が大きな作業となる。剪定しないと、開花が上手くいかないのだ。年に3回は剪定する。そして開花ピークも3月8月12月と3回ある。今は開花を待つ時期だ。根が太ってゴツゴツしている。(右写真)

上左写真は、上へ上へと伸びる姿を見た地上からの写真。



下右写真は、2016年に友人宅でいただいた在来種をベランダで鉢植えした。ピンク色の花だ。今は1メートル足らずの小ぶりだ。





オオバナアリアケカズラ（アラマンダ）

好きな植物で、長い付き合いだ。40年前、西原小波津団地に住んでいた時、我が家入り口にアーチを立てて、立派に育てた。しかし、台風で無残にも倒れた。

現在も、玄関脇の通路の手すりにはわせている。数年前、そこから、アーチをつくって、トンネル状態をつくったが、これまた台風にやられてしまった。

他の植物も大きくなったので、そこそこの大きさに留めるために12月に強剪定をしている。

鮮やかな黄色の花が、同時に100個近く咲くと、圧倒的な印象を与える。



2017年07月21日

ホウライカガミ モンテスラ オウゴンカ ズラ (ポトス) 私の庭畑づくり12

つる植物を三つ紹介しよう。

ホウライカガミ (左写真)

オオゴマダラの食草として有名というよりも、庭などで育てているのはオオゴマダラ繁殖のためといっても過言ではないだろう。私もそうだ。我が家近辺の森にはオオゴマダラが生息し、我が敷地にも飛来してくるのを見て、購入した苗を地植えしたのが初めだった。10年ほど前のことだ。

数年前、一度、卵が産みつけられ、黄金色のさなぎがぶら下がり、羽化を見た。でも、一回だけだった。その後、ホウライカガミはどんどん大きくなり、剪定が必要になるほどだが、オオゴマダラが現れない。今年は一回しか見ていない。近隣でも見かけることが少なくなった。昨年まで連続した台風襲来のためだろうか。

モンテスラ

我が家スタートのころ、贈られた鉢植えを地植えしたのが最初だ。当初すくすく伸びたが、ここ数年、台風のためか、絶えたかと思っていたら、小さな葉が一枚見えた。

最初のものがダメになったと思ったので、改めて苗を地植えした。2年ほどなるが、順調に生育し、高さ1メートルを超えるようになった。



オウゴンカズラ (ポトス)

我が家スタートから植えているが、これほど伸びるとは想定外だった。壁や木をつたって高くまで伸びた枝の葉には、一枚で50センチほどになるものがあるくらいだ。

ということで、10年ぐらい前から、徹底的に切りまくった。それでやっと現状に抑えられるくらいだ。今、育てているのは、東通路の壁面の高さ50センチまでと、中庭のグランドカバーとしてだけだ。

2017年07月17日

サガリバナ満開続く

7月12日ごろ以降、毎晩、サガリバナの満開状態が続く。2本の木ともそうだ。特に、高さ5メートルを超す大きい方は、花の房を数十本つけ、各房には数十個の蕾。

この見事な開花は、半月ほど続きそうだ。



暗くなってからが見頃。翌朝になると、すべて落ちるが、地面に落ちた100余りの花々もまた美しい。

こんな開花を、年末近くまで繰り返す。正月まで咲いた年もある。

2017年07月12日

知らぬ間にたくさん育てていたつる植物 ハツユキカズラ 私の庭畑づくり11

ここに住み始めたころ、直射日光を遮るために、つる植物を育てることを考えた。とくに、建物南側の地上から1-2-3階にかけて伸ばすつる植物を考えた。そこで、沖縄都市環境研究会「沖縄の街づくり・庭づくりに活かすつる植物」沖縄出版1996年という本を購入して、いろいろと考えた。この連載を書くために、この本を久々に広げて驚いた。知らないうちにたくさんものを育てていたのだ。掲載されている94種中17種を育てているのだ。まずは、この本に登場するもので我が家で育っていると、はっきりわかるものを並べよう。

建物南側に植えて、上へ上へと伸ばしているもの

シッサス ニンニクカズラ ハニーサックル (スイカズラ)
 テイカカズラ 多分、リュウキュウテイカカズラだろう
 テイカカズラの仲間の黄金錦 アサヒカズラ (ニトベカズラ)
 ブーゲンビリア

庭畑に植えているもの

チョウマメ クダモノトケイソウ (パッションフルーツ)
 サクララン (ホヤ) ホウライカガミ ハゴロモジャスミン
 モンテスラ オウゴンカズラ (ポトス)

玄関への通路の脇に植えているもの

ジャスミン・マツリカ (ムイクワ) オオバナアリアケカズラ (アラマンダ)

あちこちに自生しているもの

オオイタビ マッコー (ハリツルマサキ)

つる植物には、壁面や地面をはうものもあれば、ロープなどを伝うものもある。このあたりが大変だが、面白いことだ。

最後に、本には掲載されていないハツユキカズラの写真を紹介しておこう。インターネット情報だと、テイカカズラの類で、別名フイリテイカカズラというそう。3、4年前、苗店で買って植えたものだが、いまや1~2㎡の地面をおおっている。



2017年07月02日

トックリヤシモドキ マニラヤシ アレカヤシ 私の庭畑づくり10

これからは、我が庭畑で存在感のあるものに焦点をあてて書いていこう
まずヤシ類で、現在3種ある。

トックリヤシモドキ

我が家入口の右側に、高さ4～5メートルで元気よく成長している。ここに住み始めたころに植えたものだ。1メートルほどの苗を店で見つけて植えた。

40年前、西原小波津団地に住んでいたころ、ココヤシを育てていたが、大きくなる途中で虫にやられてしまった。このトックリヤシモドキも虫にやられたが、木酢液を薄めたものを幹上部から注いで対処した。その時の傷跡のような

もので、幹が途中でやや細くなっている。それ以外は順調に育っている。年間に約4枚の枝葉を出し、幹が20～30センチ伸びる。

幹の容姿が気に入っている。トックリヤシのトックリ形をスマートにした感じだ。成長するにつれて、駐車場への西日を遮る役目もしてくれそうだ。10年もすると高さ7～8メートルになり、我が家入口のシンボルとなりそうだ。



マニラヤシ

建物西側通路脇に植えている。葉が自然にはがれて落ちてくるので、枝葉を切る作業がなくて好かれているようだ。これまたすらっとした容姿が好まれているようだ。高さ1メートル足らずの苗を植えたが、もう樹齢10年を超え、高さは4～5メートルになる。上へ上へとすらっと伸びる。



アレカヤシ

以前、ワシントンヤシを植えていたが、うまくいかなかった後に、隣家からいただいたアレカヤシの苗を庭の西の隅に植えた。西原小波津団地の時も育てていたものだ。灌木のように、地面からどんどん新しいものが生えてくるのが特徴だ。現在4本が伸びており、これでストップして、新しいものは切り取っている。

植えて10年にならないが、現在高さ3メートル余りになる。



2017年07月01日

パッションフルーツ豊作 ギボウシ

ディフェンバキア こうもり いそひ

よどりの巣

このごろの我が庭畑の話題

1) パッションフルーツ豊作 賞味

6月中旬に始まった収穫作業も、いよいよ大詰め。どうやら100個を超す豊作だ。現在4

つの苗で育てているが、そのうち一本の紫色が大収穫。もう一本は黄色で、少ない。他の2本は、まだ実をつけられるほどになっていない。

27日から食べ始める。表面に皺がでてくると、食べごろのサインだ。酸味と甘味が混じっておいしい。店では、一個80円ほどだ。



2) 今春、初めて植えたギボウシが一輪だけ開花。どんどん広がることを期待している。



3) ディフェンバキアが開花した。中庭のソテツが日照不足のため、ダメになったので、そこに移植する作業もした。

4) こうもり

カラスとの熾烈な戦い。どうやら、カラスとは時間分けをして、共存しているようだ。昼間飛び交っているカラスは夕方までにどこかに消える。夕方以降、我が家周辺には数組のコウモリ一家がいるようだ。

こうもりが飛んでいるのを撮影するのは至難の業。木にぶらさがって、留まっているのは撮影ができる。右写真は、木の実を食べているコウモリ



5) イソヒヨドリ (スーサー) の巣

数日前、建物の西通路のクロトンに鳥の巣を見つけた。メジロかなと思った。28日、通りかかると、イソヒヨドリが飛び立つ。見ると卵が三個。こんなに人間が通る所で、とろうとすれば、簡単にとれるところに巣をつくるなんて、とってしまう。去年は、クルチに巣を作った。去年も人間に近くて驚いたが、今年はそれ以上だ。だから、写真も、なんの苦労も無しに撮影できる。ちなみに、地上高1メートルちょっと。ズームアップもしていない。

2017年06月22日

自然に沿ったデザイン 私の庭畑づくり9

南城市のオープンガーデンでは、洋風・和風・ナチュラルなどと、各庭のデザインを表現している。洋風にもイングリッシュ・ガーデンなどという表現があるし、さらにバラ園、花園、多肉植物園などもある。他にも中国風もある。琉球風というのがあるかどうかは微妙なのだろう。

これらのなかでいうと、私の庭畑は、ナチュラルの分類になるだろう。

たとえば、種目を選定して、動物の形に似せるのがあるし、松やクロキを盆栽風に仕立てるのもよく見かける。それらとは対照的に、私の剪定は、できるだけ樹木の自然形に近いものにする。果樹などは、収穫のしやすさを考えるが。そして、直線形よりは曲線形が好きだ。

ふりかえると、予め設計してやったというものではなく、自然に沿って、自然の流れでやってきた。その自然は、直線形ではなく、曲線で入り組んでいる。

5センチくらいのガジマルやソテツを見つけると、そのまま育てた。リュウキュウコスミレ、ツルボ、サンニン、フーチバーなどは、敷地に最初から生えていた。名前を知らなかったものも多い。印象に残ると、雑草として引きぬくことを止め、残していくと、広がっていく。

敷地内から出てくる大量の石は、通路づくりに投入した。

植物が込み合ってくると、草取りや間伐をする。しばしほっておくと、ジャングル状になる。草が繁ると、ハブさんが登場する。

そんなやり方だから、虫などの小動物は多い。蝶も多い。それらを狙って、鳥たちも集まる。イソヒヨドリ（スーサー）やメジロなどの鳥の巣もよく作られる。

オオジョロウグモが多いのも、特徴だろう。6～10月はあちこちに数十の蜘蛛の巣ができる。巨大なので、来客が驚く。蚊も多い。6～10月は防備なしで畑に入ると、蚊の餌食になる。5分で10カ所を刺されるのはごく普通だ。私は、全身をおおう網の服で畑に出る。

作った傾斜のある通路（石とモルタル製）
に生えてきたオオタニワタリと苔



2017年06月13日

苗種 私の庭畑づくり8

今回は、植物たちの苗や種の取得方法について。と言っても、自生しているもの、種こぼれのものが結構多い。

1) まずいただきものの活用だ。新築祝いということで、かなりの植物をいただいた。装飾用の鉢物も多かった。それらで地植えできるものは、すべて植えた。多かったのは観葉植物や洋蘭だが、洋蘭の多くは鉢植えにしていた。

樹木の枝が分岐するところなどに載せる着生ランという方法を知ったのは、2010年代に入ってからだ。それ以降、着生ランに凝り始めた。最近では、そのために苗を買うこともある。すでに数種類が開花した。より自然に近く風情を感じる。

2) 近隣の方と、植物交換したものもある。リュウゼツランやオオタニワタリがそうだ。オオタニワタリは孢子が散らばって増えるが、すでに庭畑のあちこちに育っている。

3) 野菜などの種まきは、数種類の混植を基本にしている。10年近く前には、福岡式の粘土団子作りを体験したこともある。その体験をブログに書いて、それをきっかけに取材されたこともある。

混植すると、温度などの状況に合わせて、都合のいいものから発芽してくる。ということで、順々に育つようになる。

4) 植えただけで、手入れ不要に近いものを植える。野菜を例にすると、ハンダマ、シマラッキョウ、ニラ、ネギ、サトイモなどがそうだ。

5) 根を残して、何年も継続させる。ウリズンマメ、グシチャンイイナ(カンダバー)、キク、そして、球根類(アマリス、フリージアなど)がそうだ。一年草と説明されても、多年草化するものもある。ルッコラなどは、1年以上生きている。

6) 自然にでてくるものを生かす。リュウキュウコスミレ、ツルボ、ソテツ、ガジマル、月桃、シャリンバイ、チシャノキ、セイロンベンケイなどがその例だ。

自家採取したり、種こぼれを育てているものもある。モロヘイヤ、シマナーなど。

7) 無論、近くの苗店で購入したものも多い。ハーブなどはほとんどがそうだ。育てたことのない苗を店で見つけると、すべて実験的に栽培した。ハーブは100種以上植えただろう。結局、我が庭畑に合う50種近くが育っている。いまでは、年に1~2種の補充と、コリアンダーやチャービルのように一年草の種を購入するぐらいだ。



写真はユーフォルビア・ダイヤモンドフロスト。これもいただいた鉢物の一つだが、繁殖力旺盛で、株分けをして何か所かで育てている。

2017年06月12日

大量のライチが鳥に食べられる

ここ数日のなかでの大事件は、いよいよ収穫だと期待していたライチ（レイシ）100個近くが、鳥に食べられてしまったことだ。多分、シロガシラだろう。

早めに収穫すればいいだろうと思われるかもしれないが、熟しないままで収穫すると美味しくない。網や袋をかければいいと思われるが、鳥は破って食べる。

写真は、鳥に食べられる前日のもの。このほとんどが食べられた。やむなく、1～3日たてば食べられそうなものを収穫した。



このドラマは毎年のことだ。3年前には、収穫中に木から落ち腰を打って、整骨院のお世話になった。



2017年06月10日

ドラゴンフルーツ開花 オオイ
タビに絞め殺されそうなチシャ
ノキ このごろの庭畑

ようやく夏めいてきたこのごろの庭畑の
話題二つ。



屋上のドラゴンフルーツが開花した。旧暦の12日と13日。いつも、満月と新月あたりに月2回開花する。今年の第一号は、ほぼ例年通り。10月まで咲き続けるだろう。

屋上に、14個の大鉢で育てている。もう10年を越した。今回は、今年のもので5個と少ないが、いずれ毎回10～20個ほど咲くだろう。そして、6～7割が実になる。開花から20日余りかかる。赤い身

で、とても美味しい。6月末からの来客は幸せだ。

写真3枚目は、しおれた花の下から膨らんできた実



もう一つの話。我が家最大の樹木はチシャノキだ。植樹したわけではなく、自然に育ってきたもので、高さ7～8メートルになる。敷地の西端の崖に育つ。このあたりでは、よく見かける。年に2～3回、開花する。

巨大なので、剪定というか間伐をしないとイケない。しかし、ここ数年、高さ7～8メートル以上には伸びていかない。一つは台風のためだろう。強風をまともに浴び、潮風にあうためだろう。ところが、そのためだけではないことを、観察していて気付いた。ツル植物にまかされているためのようだ。いわゆる締め殺しになりかけているのだ。それは、オオイタビというありふれた植物だ。通常は、ブロック塀などにはりついて、壁面を美しく飾る。だから可愛らしくもあるが、締め殺しにしているものは、巨大だ。葉や茎も強力な感じだ。

この木のおかげで、日蔭になって、樹木の下は、日陰でも育つ観葉植物園風になっている。それでも、遮光率100%近いので、先日、3本の幹のうち、一本を切った。直径20センチを超えるので、チェーンソーを使った。片付け時間を含めて、2日間3時間を要した。



切ってみると、オオイタビによる締め殺しがかなり進行し、チシャノキの枝葉より、オオイタビの枝葉の方が、量的にも多くなっている。このままだと、いずれ、全体が締め殺しの犠牲者になりそうだ。数年後か10年後か、予測できないが。

すぐ近くからは、自生のゲッキツやシャリンバイが、伸びてきていて、高さ2～3メートルになっている。ここは、亜熱帯の森なのだ。

上写真の左が、切った幹。残された幹には、オオイタビの枝が大量に巻き付いている。

下写真は、切断後2日たったもの。幹にまきついたオオイタビの枝葉が、まだ元気だ。



2017年06月03日

通路づくり 私の庭畑づくり7

畑庭には、通路が必要だが、計画的に作ったというより、庭畑づくりの流れの中で、自然にできてきたという感じだ。急傾斜地なので、まっすぐな通路を作ることは難しい。加えて、直線的なものより曲がりくねったものの方がいいという私の好みもある。

通路は、まずは敷地内から出てきた石灰岩のかけらを並べた。かなりの量なので、それだけで通路の基礎はできる。傾斜が強いところでは、かなりの量が必要だが、その必要を満たすほどたくさんものが出てくる。大きいものは30～50センチ20～30キロぐらいで、一人で運ぶのに難儀するほどのものまである。

それらを並べただけでは、不安定だし、ごつごつして歩きづらいので、その上からモルタルをかけた。セメント袋でいうと、10袋使ったのだろうか、かなりの作業だった。素人作業なので、見栄えはよくない。ナチュラルな雰囲気丸出しだが、それがかえって風情があると思ってきた。最近、その通路の上を木片チップで覆った。急傾斜で覆えないところもあるが。

それらとは別に、中庭や東通路などで、レンガとか陶製プレートなどを置いて通路にした個所もある。

通路と畑庭との境目には、タマリユウを植えたところがほとんどだ。タマリユウによる縁取りといってもいいかもしれない。タマリユウはとても強い植物で、多少の水不足・日陰をものともしない。ただ植えておくだけで、一年に2倍に広がる。上を歩くのもOKだ。

実は、愛知県の赤池の家で活用していたものだ。玉城への引っ越し荷物に入れて移したものだ。それほど強いものだ。最近では、沖縄の園芸店でも販売しているが、結構な価格がする。

縁取りだけでなく、いまでは、樹木の根元のグラウンドカバーとしても活躍している。

グラウンドカバーとして、他にはオリズルラン、ポトス、コケ類を活用している。ポトスは広がりすぎるので、どんどんカットするほどだ。オリズルランも繁殖させやすい。

隣地との境界も、コンクリート塀などをできるだけ避け、植物でつくってきた。もっとも活躍しているのは、千年木だ。挿し木するだけで、どんどん根付く。



こうして10年を超すと、通路で庭畑がいくつかに区分されて各々の特性が出てくる。果樹園、ハーブ薬草園、観葉植物園、ベランダ野菜園といった具合だ。

樹木が大きくなったところの根元は日が当たらないので、野菜畑が縮小し、日陰でも育つ観葉植物中心の所が増えている。それらのあおりで、日当たりを好む野菜類は、ベランダでのコンテナ栽培が中心になってきている。

写真はボッグセージの花

2017年05月22日

有機無農薬 木片チップの投入 私の庭畑づくり6

スタート以来ずっと無農薬で通してきた。その代りに次のようなことをしてきた。

- 1) 敷地に自生しているもので防虫効果があるといわれる月桃やフーチバーなどを堆肥のなかに入れ込んだり、庭畑の通路などあちこちに置いたりした。他にも、たくさん育てている薬草類・ハーブ類が虫抑制効果があるかもしれない。
- 2) 木酢液の使用。玄関脇のトックリヤシモドキに害虫が入ったので、木酢液で駆除した。そこで、木酢液をいろいろと使い始めた。合わせて、ハブ除けにもなりそうだし、酸性土壌を好む樹木のためもあるとあって、庭畑の必要個所に散布したり、ガラスビンに入れて数か所に置いたりした。

これらに、どれほどの効果があったかはっきりしたことは書けないが、ある程度の効果はあるのではないかと考えている。

前回書いたように、自家製作の堆肥を中心に栄養分を補給している。敷地内の草枝葉そして台所から出る生ごみなどはすべて堆肥作りに使う。だから自家循環といえるかもしれない。さらに不足分を市販の堆肥で補っていることは、前回書いた。

加えて、2016年末に大量の木片チップをトラックで運んでもらい、庭畑に投入した。きっかけは、長年これを使用している赤嶺さんの話だ。南風原神里のインターの角にある園芸店の主で、農業専門家だ。オープンガーデンで拝見したあるお宅で通路に敷かれていて感じがよかったこともきっかけの一つだ。

しかし、どこで入手できるかが分からなかった。2016年10月の南城祭のシルバー人材センターのブースで、それを見つけた。早速運んでもらった。トラック一杯で1000円もせず、輸送料のほうが高いくらいだ。

おかげで、畑庭に大量に入れ込み、さらに通路にも置いたので、気分がいい。

以上のほかに、即効性のある有機液体肥料や固形油粕なども、野菜や花などを中心に時々与えている。

写真は、庭のスパティフィラムの花





2017年05月16日

野菜・ハーブの移り替わりのころ



庭畑の野菜や花も移り変わりの時。野菜・ハーブでいうと、

去るもの コリアンダー（上右写真は最後の花）
チャービル（上左写真は最後の花）

来るもの ウリズンマメ（左写真） モロヘイヤ
ブラックミントなどのミント類などが繁茂し始める

今年の異変は、例年だと、8月ころから収穫できるウリズンマメが、もう収穫できている事。ペラン

ダで、昨年育てたものが、芽をだして立派に成長し、10日ごろから収穫開始。露地植も2年前の苗が、活性化している。

右写真は、2年前の苗の根が、芋状態になっている。





モロヘイヤの苗 左は種から育てて、ベランダの千年木の鉢に移植したもの。右のほうに写っているものは、昨年の苗から伸びてきたもの

果実では、このところ、パッションフルーツの人工授粉を毎日している。10個前後の開花が20日余り続いている。6月に入ると収穫開始だろう。ピタンガは、毎日30～40個収穫。食べきれない。



2017年05月12日

堆肥づくり 私の庭畑づくり5

庭畑の栄養分を、自前で調達しようという魂胆で、堆肥づくりをせっせとしてきた。堆肥作りは、コンポスト容器使用と野ざらしとを併用している。コンポスト容器は、家庭用生ごみ処理目的の、市の補助金を2回活用して購入した。現在4つ使っている。以前は、これが中心だったので、20日ごとに、新しいコンポスト容器に枝葉や生ごみを入れていた。樹木が伸び、剪定の枝葉量が半端でなくなった現在では、野ざらしが多くなった。そこで、コンポストは、月一回で回している。

地面に10センチぐらいの穴を掘り、そこにコンポスト容器をいれ、最初に剪定枝を入れ、そのうえに、畑庭の枝葉や草などを入れる。時々、台所からでた生ごみも入れる。生ごみは、全てここにいられているので、市の収集車のゴミに出したことはない。

コンポストには、少量の土を混ぜ、時には米ぬかや鶏糞を入れている。たまってくると、下に沈むので、枝葉などを追加し、2~4か月で、コンポスト容器を取り払い、中味を混ぜ返す。6~8か月で堆肥状態になる。といっても、上手ではないので、立派な堆肥というところまでなっていない。

野ざらしは、何も植えていないところを20~30センチくらい掘って、一番下に太い木片を置き、その上に枝葉などを野積みするだけのシンプルなものだ。つい最近、シートをかけることを試し始めた。一年近くたつと、堆肥になる。一番下に置いた木片は、何年もしてから効果を発揮するようだ。それを活用する農法もあるようだ。

四つのコンポストと手前のコンポストの向こう側が野ざらしの堆肥。シートがかけてある。

こうして作る堆肥の量は、畑の栄養分を賄うには、現在の所、まったく不十分なので、市販の堆肥を年間20~30袋を購入して使っている。最近、シルバー人材センターの「くがに」を使っている。

他に、近くの城間農園の「はじめくん」という上水道浄水場の残土を使った土壌を購入して、庭畑だけでなくベランダのコンテナなどで、培養土や播種用の土として使っている。



こんなふうにして、土は少しずつよくなっている。ミミズなどの生き物も増えている。

ここまで書いたことは南側の敷地を半分に区切った、その南の畑部分のことが中心だが、北の庭部分でも似たことをしてきた。そこは、建物の基礎工事のために掘り返し埋め戻した部分が多い。埋め戻しは、石灰岩混じりの島尻マーグで有機質はゼロに近い。そんなこともあって、芝を含めて植物の生育は悪かった。

そこで、最初芝を敷いていた部分を、4~5年ぐらい前に大胆に掘り返した。通路箇所を除いて30センチ以上掘り返し、そこに大量の枝葉を50センチぐらいの厚みで詰め込み、庭につくった池の穴からの土をかけて、一年近く寝かした。

ここには、らせん型ハーブ園などを作った。

2017年05月09日

ティートリー満開 バナナ収穫

ピタンガ収穫

1) ティートリー満開

ようやくティートリーが一齐に咲き始めた。例年より一か月遅い。中旬まで見られそうだ。我が家自慢の花。樹高は5~6メートル。台風で幹が折れたこと2回をものともしていない。



2) バナナ収穫

3年前の台風で開花目前に根元から倒れる。倒れた「幹」めいたものを堆肥にするつもりで埋めたところから芽を出して収穫に至る。

3) ピタンガ収穫

美味しい。アセローラに似ているが、それより甘味があって美味しい。落ちた実からどんどん発芽する。一本さしあげたこともある。我が畑でも2本が育ってきている。それ以上は不要なので、切っている。



2017年05月02日

開花し始め ダイギンリュウ クミスクチン クフェア ガクアジサイ ハンギング

ヘリクニア

ようやく寒さも抜け始め、遅れていたティートリーなどの開花も進み始めた。
いくつか紹介しよう。



ダイギンリュウ いただいたものを庭植えや鉢に植えていて、大きくなってきたが、枝の先に赤いものが見えた。新葉の色か花の色かはっきりしないが、多分、花だろう。

クミスクチン (猫のひげ) これから、開花が続くだろう。 下左写真

クフェア 地味なものだが、それだけにいとおしくなることもある。 下右写真





ガクアジサイ 最近いただいたものを地植えにした。色づき始める。他に何年前か前に植えたものも、花をつけている。

ハンギングヘリクニア

これもいただきものだが、とても元気よく育っている。近くのガジマルにも負けないほどだ。これまたすぐ近くのハイビスカスを凌駕しているというか、取り囲んでしまった。高さは2メートルを超す。たくさん赤い蕾が出てきた。開花までには10日以上かかるだろうが、これから、長い期間楽しめそうだ。



2017年05月01日

不耕起 私の庭畑づくり4

こうして始まった庭畑づくりだが、試行錯誤連続のため、変化し続け現在に至る。こんな風にしてやってきた庭畑づくりの特徴を並べて述べていこう。

まず不耕起。

土の中に15センチ以上農具を入れるのは、堆肥を作る時や、大きな苗を植え付ける時に、スコップで穴を掘るぐらいだろう。

最初のころは、余り考えずにやっていた。土が硬いので、20～30センチ掘るには大変な労力を要する。10センチも掘れば石のように硬い粘土に突き当たる。だから、結果的に不耕起になっていたといった方がよいかもしれない。畑づくりを始めてしばらくして、「不耕起」という言葉があり、それもまた農法の一つであることを知った。

不耕起だと、土のなかのミミズなどの生き物の生育を助けるらしい。収穫の時も、たいていは根を掘り出すことをしないで、茎から上を切り取り、根をそのまま残しておく。再びそこから成長し始めることもある。そのまま、根が土に還っていくことも多い。根の後が空洞になったり、やわらかくなったりして、そこに新しい植物の根が伸びていくこともあるようだ。だから、不耕起の代わりに、根が耕してくれるという理屈のようだ。

それでも、コンポストなどでの堆肥づくりをしてきて、その際、10～20センチほど掘り下げ、3～4年で畑全体を一周する移動をしてきたので、3～4年に一回は耕したことになるだろう。ここ数年は、果樹が大きくなり、枝葉などを埋めて堆肥にする場所が減ってきたので、事情が少しずつ変わってきている。

こんなやり方だから、鍬をもっていない。農具はスコップ・ヘラ・ハサミが中心。とくにヘラ（写真）が活躍だ。これは沖縄式農具の代表的なものらしい。樹木が大きくなったので、剪定が大きな作業となり、ノコギリの活躍が多くなった。それでも間に合わないのが、最近電動チェーンソーを仲間入りさせた。

小さなころの私のイメージでは、備中と鍬が必需品だったが、いずれも使っていない。そのかわりに穴掘りや苗の植え付けなどに活躍するのはスコップ。もう三代目だ。



こんな不耕起なのだが、スタートから13年たった現在、表土は30センチを超すようになった。表土というよりも、埋め込んだ枝葉などが変化したものに土が混じった腐葉土といった方がよいだろう。

2017年04月29日

テイカカズラ タイワンレンギョウ ユリ ティートリー ドラセナ・レフレクサ
「ソング・オブ・インディア」 コーヒー

ちょっと寒ささえ感じる日々だが、着実に開花の季節になってきている。
現在、我が庭畑で開花中のものを少しずつ紹介していこう。

テイカカズラ 昨年植えたものだが、いっぱい開花



タイワンレンギョウ (デュランタ) (左下写真) これからどんどん咲いてくるだろう。キバナタイワンレンギョウも開花している。

ユリ 庭植えたカサブランカ (オリエンタルリリー) (右下写真) すぐそばの鉄砲ユリの開花は、数日後になりそうだ





ティー 트리 数日前に咲き始めた。例年より一か月以上遅い。5月5日ごろに満開になりそうだ。

ドラセナ・レフレクサ 「ソング・オブ・インディア」 植木として、挿し木であちこちに植えたが、開花に気付くことはこれまでになかった。沖縄ではとてもポピュラーだが、花に気付き愛でる人は少なそうだ。



コーヒーの木 3月に咲いたが、再びいっぱい咲いている。

2017年04月24日

開花 アマリリス オクラレルカ

パッションフルーツ

今年は例年より遅いが、いろいろな花が開き始めた。連続して紹介していこう。

今回は3種類

アマリリス 私たちが住む以前からあるので、10数年以上になるだろう。毎年元気よく咲く。地植えでほったらかしだが。満開は、月末ごろになりそう。



もう一種類、東村で買ってきて私が植えたものがあるが、開花は5月になりそうだ。



オクラレルカ 数年前に来客にいただいたもの。どんどん広がっていく。満開は月末だろう。

パッションフルーツ 10日ほど前から開花。一番早いものは、もう実が大きくなり始めている。6月月初めまで咲き続けることだろう。毎日、人工授粉しなくてはならない。



2017年04月22日

我が庭畑の開花予想 ラン

陽気がよくなり、少なかった雨もそこそこに降っているので、庭畑の花が開花し始めた。パッションフルーツ、アマリリスが開花しはじめ、オクラレルカ、ティートリー、ハンギングヘリクニア、ユリがまもなく開花だ。次回あたりには、紹介できるだろう。

そんななか、鉢にあったランを着生ランにする作業を進めた。

すると、昨年着生ランにしたものが、見事に開花し始めた。

新聞に、高いところにあったガジマルが根を伸ばして、地面に着き勢いよく生育している話題が掲載されていた。我

が家の玄関脇においてあるいただきものの盆栽のガジマルも、鉢底から3メートルも根をおろして、着地し元気よく育っている。



2017年04月21日

庭畑づくりの準備 私の庭畑づくり3

2004年9月から玉城生活が始まった。庭畑づくりも始まった。といっても、最初の1～2年間は、庭畑にするための環境設定が中心だった。

硬いクチャと、そこに混じるサンゴ礁石灰岩。雑草を取りながら、表土を掘り返し、岩石を取り除く。クチャはご存じのように硬い。土なのか石なのか微妙だ。石灰岩の数量も半端ではない。それらを集めて、通路づくりに生かす事にした。雑草もてごわい。悪条件のなかで生きてきたものだから当然だろう。土に有機栄養分はほとんどない感じだ。

建物工事が始まる前の敷地に、ソテツの赤ちゃんを発見。それを敷地西南隅に植える。現在では高さ2メートルになる。そして、居住し始めたころ、東南の大きな岩の上に、芽を出したばかりで数センチにもならない赤ちゃんガジマルを発見。そのまま伸ばす。数年後には高さ5メートルを超え、現在は、毎年大胆な剪定を繰り返すほどだ。

これらの仕事は、健康を害していた私にとって、いわば作業療法になっていた。毎日、2～3時間はしていた。それくらいが体力の限度だった。

そんななかで、庭畑作業は、業者に頼むことは一切しないで、自分たち自身で作るスタイルがはっきりとし、知らぬ間に、自分流（浅野誠流）庭畑づくりになっていった。恵美子もしたが、大半は私の作業だった。恵美子は、建物内部の仕事を中心にしていた。

敷地は、2階の中庭、東西の通路、敷地南を半分で区切った庭と畑に区分できる。

そのうち庭が最初に一応の形になった。というのは、恵美子の希望もあって、芝を敷いたからだ。作って2～3年は順調で、美しい緑になる。そこで二人で撮影した写真（屋比久壮実撮影）は、2007年に出版した「沖縄田舎暮らし」の表紙を飾った。



しかし、芝づくりに必要な基礎作業としての基盤づくりを省略したこともあって、しばらくして劣化し始める。禿げるところ、雑草に負けるところも出てくる。芝刈りも大変な作業だ。管理が面倒になる。

8年ほどたって、芝をとって、大きく模様替える。

2階の中庭は、急傾斜に加えて、日陰になる時間が長いこともあって、試行錯誤が長く続いた。東西の通路は、人が歩けるようにする作業が中心となった。畑は掘り出した石灰岩を並べ、上からモルタルをかけて通路をつくり、全体を15区画ぐらいに区分した。通路の縁に、赤池からもってきたタマリユウを植えた。

タマリユウ同様、赤池からもってきた水仙の球根を植えたが、冬が寒くならないために、植えばなしでは、開花が思うようにならず、結果としてほとんど除去することになった。

そして、来客が持参してくれた苗木をあちこちに植え始めた。また、好きな苗を購入し、植えていった。

こうして、計画して作った面もあるが、そうなってしまった面とが合わさり、さらに時間の経過とともに変化していく面とが合わさるものとなった。たとえば、畑の当初は日当たりがよかったが、樹木の生長につれ日陰になり、畑面積は縮小していった。

2017年04月18日

カクチョウラン 我が庭畑の 開花情報

急に温かくなり、庭畑も開花へとすすむ。

✿ 咲いているもの

カクチョウラン 3月に植え付けたばかりだが、もう開花している(写真)。沖縄地元のランという事で、地植えできるものだ。

アネモネ

ナスタチウム

ハイビスカス(3種)

アセローラ

ミフクラシギ

✿ 数日後には開花しそうなもの

ティートリー 今年は、とっても遅咲きになった

アマリリス

オクラレルカ

ユリ

いずれも、4月下旬が見頃になりそうだ。花見訪問はいかがですか。

ティートリーは大きな木なので、中山と新原を結ぶ道路からも見えます。



✿ 開花が終わって、小さな実が見え始めたもの マンゴー(写真)

ライチ

2017年04月11日

愛知県赤池での庭 玉城の庭畑づくり前の状態 私の庭畑づくり 2

仕事の都合で、1990年沖縄を離れ愛知県に移った。一年間の借家住まいから1991年名古屋郊外の赤池の自然あふれる地域に移った。30坪ほどの庭畑になりそうな土地がついていた。職場の同僚から、10数本の植木苗をいただいて育てた。季節に合わせて順々に開花する花木で、ずいぶん楽しませていただいた。春でいうと、ロウバイ、ユキヤナギ、レンギョウなどが咲いた。

別の同僚からいただいたクスノキが、順調に成長し、高さ数メートルになった。沖縄からもっていった月下美人も植えて、一晩に十数個も咲かせたことがある。カモミールを育てたこともある。こぼれ種で毎年開花した。ゴーヤを収穫したこともある。

かつてはトマト畑だったそうで、栄養分豊かで砂質のさらさらの土で、いろいろなものがぐんぐん成長した。水仙などは、大量の球根が毎年でき、たくさんの人に差し上げた。

縁取りにタマリユウを植えた。すごく広がっていった。このタマリユウを2004年の玉城への引っ越しの際に連れてきたが、現在のものは、その子孫だ。

2004年に玉城の現住所に移る。

この地は景観はよいが、20度を超す急傾斜地だし、地目は畑だったが、実際は雑木林だった。かつてはサトウキビを植えていたらしいが、表土は急傾斜で流されたためか、厚みは10センチもない。クチャが主体で、いたるところにサンゴ礁石灰岩がごろごろしている。境界には大きな岩石があるし、隣地との境界に、何十年以上も前に造られた岩を積み上げた段差もあった。

前所有者が、クルチ10本余りと、金煌マンゴー一本、ライチ三本を植えてあった。

南は、マンゴーのビニールハウス。東は巨大墓を囲む森で、「原生林」状態。西は畑地だが実質は雑木林。北は道路。超安価で売りに出されていたが、そういう土地だったので、長く買い手がつかなかったようだ。

私たちは、とても気に入ったが、実際に家が建つのかどうか大きな不安があった。土地探しの相談にのってくれていた建築家が、「腕が揮えるところだ」といって、引き受けてくれたので、実現したようなものだ。実際、工事は、とても大変だったようで、基礎工事会社が3軒もかわったそうだ。

写真は、住み始めたばかりの玉城の庭畑



加えて、私たちは、「土地造成をしない。限りなく自然を残したまま」という条件をつけた。幸いなことにボーリング

調査の結果、しっかりしたクチャ地盤で、パイル打ちは不要だった。

○建物の建設以外で、自然に手を加えたのは、次の箇所だけで、大半の植物は、元のままだった。

○隣地所有者の要請で、東側に高さ50センチ余りの境界壁をつくる。

○南側境界近くに、土流出を防ぐために10個ほどのトンブロックを並べる。

○庭と畑の間に、敷地から出てきた石灰岩による石垣づくり

○水路作り

○建物敷地内の植木の移植。

2017年04月06日

ドクダミ 連載のふりかえり 『連載 私とハーブ』33最終回



ドクダミ

かなり以前に苗を購入して、床下に植えたら、ぐんぐん繁殖している。通路にまで出て来て、踏まれることをものともせず生育している。白い花が美しい

ふりかえり

10か月続いたが、今回で連載を閉じる。

100種ほど紹介したと思うが、このほかに、育てることに失敗して、名前さえ忘れたもの、最近初めて植えたものなどを加えると、さらに多くなる。

ハーブ連載は、1～2年に一回やってきたから、また2、3年後に次の連載を始めるかもしれない。

私のハーブ育ての歴史は、20年ほどになるが、今後も長期にわたって続けるだろう。私の生活のかけがえのない一部になっている。

我が自称「ハーブ園」への訪問を歓迎します。取り立てハーブティーを飲みながらユンタクしましょう。

2017年03月31日

現在の玉城以前の話 南風原新川 西原小波津団地 私流庭畑づくり1

ここ玉城の我が家の生活も13年目を迎えるから、庭畑づくりも13年だ。ほぼ毎日1~2時間の作業をしており、生活の一部になっている。

結果として、ユニークなものが出来上がりつつある。そこで、これまでの振り返りと庭畑の現状とをブログ連載にすることで、私流の庭畑がどんな特徴をもっているのかを発見確認していきたいと思う。

はじめは、玉城に住む以前の話から。

私は、岐阜の兼業農家に生まれたから、小さい時から農業のある生活をしてきた。しかし、家業手伝いの農業は、遊びたい時期に親の命令でいやいややるのがほとんどだから、記憶はかなり薄れている。そして水田稲作が中心だし、土質や気候、農耕文化なども沖縄とはかなり異なるので、それらの経験が生きることはほとんどない。ただ土や植物に親しむことが「習い性」になっているかもしれない。

学生時代は、全く縁がなかったし、沖縄に住み始めた最初のころは、那覇の集合住宅の7階に住んでいたから、縁はなかった。しかし、7階に住む中で、なぜか地上に住みたいという気持ちが湧いてきた。

その折、義兄が倉庫にしていた南風原新川の平屋に住まないか、という声かけられ、二つ返事でイエスといった。今の新川は、南部医療センター、バスセンター、公文書館などもあるにぎやかなところだが、当時は閑散としていた。戸数も50戸ぐらいだった。

集落の中央付近のかつては畜舎だと推察されるところを義兄たちは倉庫にしていた。そこは、畑になりそうな10坪余りの土地まであった。今では住宅やアパートがひしめくが、当時は雑草地と畑が多かった。その土地を「開墾」し始めた。要領をえない私に、通りがかりの高齢者がアドバイスしてくれたこともあった。しかし、何を栽培し、収穫できたかどうかは記憶のかなただ。うまくいかなかったから記憶が薄いのだろう。

1974~76年の南風原生活から1976~1990年の西原小波津団地生活に移る。20坪ほどの庭畑になりそうな土地がついていた。芝と畑にした。後、その一部でウサギ・鶏を飼ったこともある。思い出に残るものを書こう。

ひまわりを植えたら、高さ3メートルを超え、二階の窓にまで届いた。原因は、根が浄化槽のなかまで届いて、豊かな栄養を吸収していたからだった。

入り口にブーゲンビリアのアーチをつくる。花も旺盛で、立派なものになったが、台風で壊れてしまった。

隣の境にオオバナアリアケカズラを育てた。巨大な花のウコンラッパ花を育てたこともある。

バナナを育てる。古畳一枚でバナナ一房が育つという話を聞いて、古畳を埋めたこともあった。

名称不明のアロエの仲間を育てたが、これは、その後の引っ越しにも「連れて行って」、いまなお生きている。40年を越した。

ブーゲン、アリアケカズラ、バナナ、アロエの仲間は、今の庭でも楽しんでいる。離れられない仲間だ。

2017年03月27日

長命草 ハママーチ ヨモギ (フーチバー) カワラヨモギ 『連載 私とハーブ』 32

今回も薬草について。

長命草 (ぼたんぼうふう)

近年、人気がでているようだ。自生していたのか、買ってきた苗を私が植えたのか、もう忘れてしまった。でも、敷地西南端の岩周辺に大量に育っている。強い。



ハママーチ (リュウキュウヨモギ) (左写真)

敷地西南端の岩に自生していた。庭に移植した。

ヨモギ (フーチバー) (下左写真)

これは、敷地内のあちこちに一杯だ。育っている箇所も数えきれない。どこから出てくるか予想さえできないほどだ。畑庭を整理するときには除去することも多いが、絶えることはあり得ない感じだ。

カワラヨモギ (下右写真)

買ってきた苗を植えた。沖縄自生ではないので、育て続けるのに苦労している。

たいていの薬草は、薬になるほどだからか、強い。世話をすることは滅多になく、放りっぱなしが普通だ。



2017年03月21日

オープンガーデン（嶺井時光さん、大城盛安さん、新垣嗣亀さん、安和朝忠さん）とさちばるぬなーあしび

土日、南城のオープンガーデンとさちばるぬなーあしびで楽しんだ。あいにく雨が降ったりやんだりだったが、それがかえって、静かな訪問になったかもしれない。

オープンガーデンは、これまでに回ったところがほとんどだ。今回紹介するのも、2回以上訪問したことがある所ばかりだ。それだけ気に入っているからだ。そして、私の庭畑づくりの知恵を仕入れるという魂胆も含んでいる。

さちばるぬなーあしびは、近所の山の茶屋の後ろに広がる広大なナチュラルガーデンだ。10年にわたって10回以上は訪問しているか。それでも毎回、庭が新たなバージョンへと進んでいることが感じられる。



嶺井時光さん宅（下左写真）は、山学校と名付けられている。山を畑庭園に造り直したところで、自然の雰囲気を残すとともに、多様な工夫で、植物を楽しんでおられる。

大城盛安さん宅（下右写真）は、広い敷地だが、手入れが行き届いている、まさに美しい庭園だ。





新垣嗣亀さん宅は、我が家の敷地購入でお世話していただいた不動産屋さんのオーナー宅。素晴らしく手入れされたお庭だが、多種の果樹にも特徴がある。

安和朝忠さん宅は、山一つの抜群に広大な敷地全体が庭園だ。久しぶりの訪問だが、前回整備中だった下方部分が広大な庭園として立派に整備されている。



いずれもため息がでる素敵な庭だ。我が家の庭畑は、その足元に及ばないどころか、足元にも踏み込めないほどだ。それでも、味わったこと学んだことを生かして、庭畑づくりを楽しんでいきたい。

2017年03月18日

メイフラワー コーヒーの
花 ライチの花 アサギマ
ダラ 春めく庭畑

ようやく春めいてきた。我が庭畑も
春の香りを出し始めた。

26日のユンタクお茶会の前にし
て、良かったと思う。



上写真 メイフラワーの花が増えてきた。数日後に満
開になるだろう。

左写真
コーヒーの花も咲き続けている。今年は何杯飲めるか、
楽しみだ。

下左写真 ライチの花芽は、例年になく、たくさんだ。

下右写真 そんな花シーズンに飛び交い始めるのは、蝶。写真は、ライチに集まるアサギマダラ



2017年03月16日

ビワ バンシルー（グアバ） 月桃（サンニン） 桑 『連載 私とハーブ』 31

薬草の続きだが、これらはすべて混ぜ合わせて薬用酒・薬草茶にする。

ビワの葉

10年前に植えた苗木は立派な樹木になっている。数年前から実もつけ始めた。我が家を訪問した客人が葉がほしいということで差し上げたが、枇杷の葉は、薬用にいろいろと使われている。私も、薬用酒、薬草茶に使っている。木が大きくなると、実が収穫できなくなるので、高さを抑えるための剪定をするが、その時の葉を活用している。



バンシルー（グアバ）の葉

枇杷の葉と、全く同様に使っている。実も毎年収穫している。これまた10年前に植えた。





月桃（サンニン）（葉種）

我が家近辺には雑草のように、あちこちにある。植えた記憶はないのに、我が敷地にも多い。鳥や虫が種を運ぶのだろう。生えすぎたのを処理しながら使っている感じだ。薬用酒、薬草茶に使うだけでなく、防虫用にも使っている。畑での防虫効果もあるようだ。

種を取り出すのは面倒な作業だが、これも薬用酒、薬草茶に使っている。

桑の葉

これもまた、枇杷の葉と同様だが、意識的な栽培はしていない。近隣の森のあちこちにシマグワが自生状態であるからだ。



2017年03月06日

ウコン(ウッチン) クワンソー クミスクチン (猫のひげ) 『連載 私とハーブ』30

ウコン(ウッチン)

数年前まできちんと栽培していた。春ウコン、秋ウコンをはじめとして数種類あるが、私は5種類ぐらい栽培した。しかし、収穫量が多くて、使用量の5年分ほどたまってしまったので、

今は放置状態。放置していても、取り忘れから芽がでてきて、以前ここでも育てたのだ、と記憶が戻ってくる。

掘り出したものを洗い、スライスしたり、ミルサーにかけて粉にしたりして使っている。

5年ぐらい保存したのがようやく少なくなったので、今季、久々に収穫。恵美子が、飲用食用に結構使っている。放置してきたものだから、ウコンのなかのどれが生育しているのか判明が難しくなっている。



花が結構美しい。花はクルクマとも呼ばれる。



クワンソー

心を落ち着け、やすらかな睡眠を招くということで、話題になっているもの。花が美しい。今帰仁などで農産物として栽培している。

花も葉も根もすべて使える。葉や根は洗って、細かくして薬用酒や薬草茶にする。

育てていたところが日陰になったので、最近日当たりがよいところに移植した。

クミスクチン

クミスクチンを日本語にすると「ねこのひげ」。美しい花を見ていると、猫の髭に見えてくる。

薬用効果が高いというので、薬草茶として販売されている。

繁殖力旺盛で、手入れ無しでもどんどん広がっていく。広がりすぎるので、時々処分しているほどだ。日当たりを好むので、これまた最近引っ越しをした。

他の薬草と混ぜて、薬用酒。薬草茶にして楽しんでいく。



2017年03月02日

「お茶会」(オープンガーデンができるような畑庭の知恵をいただくことを兼ねて)の

案内

今季は、2月に入って寒くなり、例年とは違う。でも、春の兆しが我が庭畑にも見られる。

メイフラワーが開花のはしり(1番目の写真)

ダイギンリュウが緑を増している(2番目の写真)

植えたばかりだが、桜が葉を広げている。

マンゴーはようやく開花の準備へ

我が家第一の自慢の花、ティートリーも新芽が動き始める(3番目の写真)

アップルミントが広がり始める

枇杷の実がふくらみ始めた(4番目の写真)

3月も下旬ともなれば、今動き始めているものが、一層盛んになるだろう。

恒例の南城市のオープンガーデンは、例年より早く、3月18日～26日だ。いつもは4月にはいってからだが、植物の盛んな動きが3月からなので、そのころに合わせたのだろうか。私には事情はわからないが。

いつかは、私もやってみたいと思うオープンガーデンだが、まだまだ態勢が整っていない。



毎年一回ぐらい、我が家ではお茶会をして、いろいろとユンタクが弾むが、今年もやってみようと思い、オープンガーデンができるような畑庭計画について知恵をいただくことを兼ねたものにしてしようと思う。

無論、ユンタクの中身は、参加者次第になるが。

3月26日午後2～5時

ハーブティー(我が庭畑産の取りたて)を飲みながら、ユンタク

参加費なし

参加希望者は、予め、このブログを通して連絡をいただけると幸いです。

ティートリーの満開は、例年だと4月から5月上旬の間で、年によって大きな違いがあります。3月、年によっては2月に咲き始めることもありますが、今年はまだです。3月26日あたりに開花してくれることを祈っています。



2017年02月23日

ハンダマのゆで汁で炊いたご飯

ピンク（紫）が美しい

庭畑にはハンダマがいくつか育っている。ハンダマの特徴は、葉の裏がきれいな紫色なこと。かなりの量が収穫できるので、新聞記事にある料理法を見た恵美子がハンダマのゆで汁で炊いたご飯に挑戦。

ピンクというか、紫というか、美しいご飯がたきあがる。



ハンダマは、島野菜として、とても上等だ。それにしては、店頭にならぶほどになっていないのが残念。

虫もつかないし、栽培法は、挿し木だけで十分育つから楽だ。アタイグワー（家庭菜園）には、最高だ。

2017年02月22日

アロエ 『連載 私とハーブ』 29

これからは、薬草類について書いていく。それらには、ハーブの本で、ハーブとして登場してくるものも多い。また、琉球ハーブとして紹介している本もある。

ここでは、いうまでもなく私が栽培し活用している薬草について書いていくことにする。自然に生えているが、活用していない薬草類は除くことにしよう。

まずアロエ。育てているのは3種

キダチアロエ (上写真)

定番のもので、「医者いらず」といって、昔からよく使われる。沖縄では露地植で全く問題なし。赤い花が開くのはまもなくだ。



アロエベラ (中写真)

これもまた定番だが、主として食用として生産販売されている。販売されているのは、肥料が多いか、土地そのものが肥えているためか、栄養状態がいいが、どちらの条件もない我が家のものは、ずっと小さい。放置しているからだ。露地植のままです。



名称不明 (下写真2枚)

40年前から育てている。引っ越しの際も持ってきたので、今は、その何代目だろうか。10代以上の子孫だろう。名前が不明で、名称不明のまま40年付き合っている。以前は鼻うがいで、とってもお世話になった。

多分観賞用だろう。現在は数株育っている。今もほとんど管理せず、放置のままで40年やってきた。でも観賞用と思えば、結構美しいものだ。「葉」のようなものは、日当たりのよい所では太く短く、日陰では細長くなる。





2017年02月12日

アスパラガス 三つ葉 ナスタチウム (キンレンカ) 『連載 私とハーブ』28

アスパラガスもハーブだとしている本がある。我が庭畑に3株植えてある。何年間も植えっぱなしだ。春～秋に新芽が出てくれば収穫する。収穫適期は、新芽が出て2～3日なので、見逃してそのまま枝葉にしてしまうことが多い。

取り立ては、そのまま食べても美味しい。贅沢な楽しみ方だ。

三つ葉

多年草化しているし、こぼれ種で広がるので、10年近く前に植えた以降は、時々移植するぐらいで、とても育てやすい。日陰で湿気があるところを好む。香りがいい。かつては野菜だと思いこんでいたが、これもハーブということだ。



ナスタチウム (キンレンカ)

春になると、沖縄各地の公園や庭にだいたいや朱色の花が咲き乱れている。これがハーブであると思う人は少ないだろう。さらに、葉や花をサラダに加えて活用している人は少ないだろう。葉はピリッとした味だし、鮮やかな色の花はサラダを引き立てる。



今季は、こぼれ種から一株しか出てこなかったので、買ってきた種をまいた。

2017年02月10日

洋ラン博覧会

6日は、PM2.5が今年の最高で、外出を控えた。ベランダに出る時もマスクをして、鼻口からの流入は抑えられるが、目がチカチカするのは防ぎようがない。

7日も心配だったが、幸いうんと減って、予定通り、海洋博記念公園で開催中の洋蘭博覧会に、二人で出かけた。この4、5年は、毎年結婚記念日に合わせて出かけているから、洋蘭博ベテランになってきた。



初挑戦だ。これで、我が家の蘭も10種類以上になっていると思う。

演出が、やや地味になり、「玄人受け」の雰囲気になった。といっても、私たちは蘭については素人なのでよくわからないが。

午後1時過ぎということもあって、団体観光客でにぎわっていた。

いつも、蘭たちに圧倒されて、写真を撮りまくっていたが、今年は印象に残るものを重点的にとった。

会場内にあるカフェで、月桃のデザートをいただく。見学終了後は、例年通り、蘭の苗を何株か購入する。こんな風にして、我が庭畑の蘭が増えていく。今年は、バンダ、レモンライム、マメヅタカズラを買った。恵美子は、エピランドラムを買う。バンダは難しいが、

帰路、八重岳の桜を見る。桜祭りは終わったが、まだ十分楽しめる。

夕方6時に帰宅。疲れは少ない。10年前までは、山原まで出かけるとぐったりと疲れていたから、ずいぶん元気になったものだと思う。



2017年02月01日

チャービル イタリアンパセリ
パセリ チャイブ 『連載 私とハーブ』27

チャービル(セルフイーユ) 毎年、2~3株の苗を11~12月に植える。今年も12月に2本植えた。香りがとてもよく、私が愛好するものの一つだ。



イタリアンパセリ(中写真)
以前は種まきから始めたが、出来過ぎて困ってしまい、今は苗を1~2本買って育てる。

この二種に普通のパセリ(下左写真)を加えると、12月から5月ころまで3種のパセリを楽しむ

この3種とは関係ないが、チャイブ(下右写真)は、ふつうのハツカネギにそっくり。なんども失敗したが、鉢植えにした今回育ちそうだ。失敗原因は日の当て過ぎと過湿にあったようだ。



2017年01月24日

カニステル収穫

8, 9年前に植えた苗木が、昨年一個実をつけ、今年は10個つけた。もうしばらくすると、食べられる。枇杷もたくさん着果している。3~4月に収穫だ。



2017年01月21日

ルッコラ コリアンダー バジル

『連載 私とハーブ』26

今回からは、料理向けに使っているハーブを紹介しよう。

ルッコラ (右写真)

毎年、9月ごろ種をまく。時には冬春にまくこともある。盛夏は無理だが、種まきに季節は問わない。

9月にまけば、11月末から収穫できる。そのまま、春までどころか、夏を通り過ぎて秋にも収穫できる。多年草化してしまう。



サラダ用に使っている。ピリッとした濃い味があり、ドレッシングなしでいける。他の野菜に混ぜれば、サラダ全体をドレッシング無しで食べるのが、薄味好きの私流だ。

コリアンダー (パクチー) (左写真)

秋に種まきし、12月ごろから収穫できる。スープやシチューに入れる。とても美味しくなる。タイ料理には欠かせないものらしい。

バジルも定番だ。年がら年中、育っている感じだ。半ば放置して育てている感じだ。たまに、忘れて切らしてしま

うことがある。その時は、苗を一本買って植えればいい。放っておいても、こぼれ種から広がる。

使い方は、定番だから、書くまでもないだろう。

ただし、今季は、病気がはやっていると新聞報道があった。我が庭でも、毎年、夏を越したのものや、こぼれ種のもので間に合ってきたが、全滅した。仕方なく買ってきた苗もダメになった。店などでも見かけない。気がかりだ。

そこで代替品として、次の二つの苗を購入して植えた。二つとも、以前に育てたことがあり、栽培は難しくない。むしろ、生育し過ぎて困るほどだった。二つとも、植えてから一か月もたたないが、まもなく収穫開始できそうな勢いだ。

アフリカン・ブルー・バジル (右写真)

近くで養蜂をしている人が、これを大量に栽培している。の蜂蜜は人気だそう。





ホーリーバジル（トゥルシー）（左写真）
インドで盛んに栽培され、アユルベーダで使用されているようだ。

2017年01月11日

「観葉植物園」？つくり

このごろの庭畑仕事の一つは、観葉植物園？つくりだ。すでに、中庭が観葉植物園？化しているので、それを追って二号を作るというわけだ。

敷地の西南端箇所は、上を樹木が覆っているので、日差しが悪い。ここ2～3年は堆肥作り場所としていた。その場所だけでなく、これまでクミスクチンなどを植えていたところも、日陰化して育たなくなっているところが広がっている。畑の半分がそうなりそうな気配さえある。そこで、菜園は3階ベランダに移動したわけだ。

こうして広がった日陰箇所をどうしようか、と考えあぐねた結果、観葉植物園？を思いついたわけだ。

すでに植えてある、コーヒーの木やクチナシなどは日陰でも育つので、そのままにしている。そして、自然に生えてきたオオタニワタリやサンニンなどは、そのまま生かす。そして、購入してきた10余りの苗を植えてみた。どれが育ちやすいか確かめ、育ちやすいものを殖やそうという魂胆だ。加えて、すでに我が家で育っていて、日陰にも耐えそ



うなものいくつか挿し木で殖やし始めた。

多分、3年ぐらいは試行錯誤だろう。3年後の2020年には見られるものになりたいと思う。

観葉植物園？つくりと並行して、剪定した小枝と木材チップを、これまで大きな石とモルタルでつくった通路のうえにかぶせる作業もしている。硬い通路ではなく、ふわっとして、自然感がでてくるものになりたいからだ。もっとも現在は試行中だ。これも完成には半年以上かかりそうだ。

2017年01月10日

フェンネル フロレンスフェンネル

ディール 『連載 私とハーブ』25

ここ数年、秋になると、この三種の苗を買ってきて育てている。露地植でも、失敗はない。

春に収穫し、ここ2年ほど、赤ワインに浸けている。近くの声楽家の知人が、喉にいいと勧めていただいたのがきっかけだ。



フロレンスフェンネルの根元近くが大きく膨らむのが楽しい。

フェンネルは、和名ではういきょう、ウチナーグチではイーチョーバー。近隣の畑でもよく見かける。薬用効果が高く、沖縄でもなじみのハーブだが、薬草という方が馴染みやすそうだ。

今季は、ベランダで鉢植え、プランター植えにしてみた。

写真は、上からフェンネル、フロレンスフェンネル、ディール

